

さぬきの輪TIMES

こだわりの4冊目



手塩にかけた、モノと想い





地域おこし協力隊

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、

地域外の人材を積極的に受け入れ、

地域協力活動を行ってもらい、

地域力の維持・強化を

図っていくことを目的とした制度。

瀬戸内海に浮かぶ香川県でも

たくさん地域おこし協力隊が、

様々な活動を通じて

地域に貢献しています。

「地域おこし協力隊って、なんだ？」

この問いに対する明確な答えは

どこにもありません。

答えがあるとすれば、

それぞれの活動そのものが

それに代わるものだと思います。

それぞれの活動を

知っていただくことを通じて、

地域おこし協力隊を

より身近に感じていただき、

さらに地域との連携を

深めていきたい。

そんな想いから、

さぬきの輪TIMESを製作しました。

Contents

- 04 特集「協力隊こだわりの品」
- 06 男木島
- 08 東かがわ市
- 10 さぬき市
- 12 まんのう町
- 15 あとがき



これがないと 仕事になりません

福本 翔 (まんのう町)

まんのう町の中でも中山間地域に広がる琴南(ことなみ)地区を中心に、耕作放棄地を利用したそば畑や水田での農作業、廃校になった中学校の利活用、道の駅でのイベント運営サポートなど幅広く活動する福本隊員に必須の軽トラック。地元の方から譲り受け、日々修繕しながら大事に乗っている。特に農作業には欠かせず、草刈り機や鋸などの農機具を載せてそば畑や水田に向かう。荷台ではゆっくり休憩できるということもあり、今ではすっかり軽トラLOVEという福本隊員にとっては家並みの快適さ。



プライベート名刺で 印象を強く残す

石原 慎介 (さぬき市)

さぬき市地域おこし協力隊(中央)、プライベート(右上)、自身の会社(左上)の3枚の名刺を使い分ける石原隊員。地域の方に挨拶するときに、自分のことを一言で言い表すプライベート名刺があると覚えてもらいやすいという。長い社会人経験から、覚えてもらうことが新しい仕事につながることを体感してきたので、「ツッコまれてなんぼ」という関西人気質で試行錯誤を重ね、話題に困らない今の名刺に落ち着いた。現在は、そのツッコミどころをさらに発展させるために、日々夜遊びを重ねている。



3枚の名刺



環境に優しい 循環型の暮らしを

稲子 恵 (土庄町豊島)

小豆島の友人が竹を食器に使っているのを見て、豊島でもたくさん自生する竹を活用することに。地元の方が竹を切り出してきて、仲間と手作りした器と箸は、昨年の瀬戸内国際芸術祭でデビュー後、小豆島サイクリングイベントや地域行事で大活躍している。環境に優しい「食と農」をテーマに活動する稲子隊員は、食材の下に葉蘭を敷いたり山椒の葉を飾ったり。自然素材を使うことでより美味しく見えるなど、島のお母さん方から素敵な知恵を学びながら、少しずつ自給自足を実践し「循環型の豊かな暮らし」を目指す。



竹の器と箸

※他の隊員も要チェック!

検索 さぬきの輪web



協力隊こだわりの品

活動する地域や内容によって異なる、地域おこし協力隊に欠かせない道具。今回は、隊員の日常を垣間見ることができる、普段使用しているモノをご紹介します！こだわりの品を通して見えてきたのは、それぞれが大切にしている想いでした。



多度津町を 世界にプロモーション

日根野 太之 (多度津町)

フリーランスのフォトグラファーでもある日根野隊員。アツイ想いが詰まったカメラを使い始めて早15年、2台目。その時間の空気感と自然に近い色合いが好きで長年使っているPENTAX67は、フィルム一本で10枚しか撮影できないが、1枚1枚じっくり撮るというプロセスも大切にしている。異色の経歴と人脈を持った日根野隊員は、今までの経験を活かして「海外の人が注目する多度津の町を!」目指し、日々面白く楽しいことを妄想企画中。カメラを持って町内を歩いていると地域の人から声を掛けられ井戸端会議に発展することも(笑)



中判カメラPENTAX67&ブローニーフィルム



コミュニケーションにも 役立つ便利グッズ

山崎 智久 (琴平町)

アウトドアで使用するイメージの強いマルチツールだが、観光商工課に所属する山崎隊員は日常的に活用している。金刀比羅宮のある琴平町では、こんびら歌舞伎、夏祭り、例大祭、灯籠流しなど地域行事が多く、テントを立てる際にロープを切ったり、記念品が入った箱を開けたり、ベンチは固く結んだロープを解く時や釘抜きにも活用でき、作業時には手放せない。効率的に作業ができるだけでなく、ちょっとした時に頼られるので意外にもコミュニケーションツールとして役に立つことも。



地下足袋



今までの活動の 記憶がよみがえる

瀬崎 義之 (高松市塩江町)

昨年の「塩江スプリングフェスタ」での演劇に出演した際に初めて購入し、その後、農作業にも使用してきた地下足袋。3年目に入った瀬崎隊員にとって、劇の稽古や、初めての農業に苦戦しながらも塩江小学校の生徒たちと花の色を利用したそば畑アート挑戦、塩江特産の炭谷(すみや)ゴボウ栽培など、年季の入った地下足袋を見るたびに色んな記憶が思い出される。夏場の畑作業は地面が熱すぎて、町民の方と「地下足袋だと足の裏がやけどしそうですよね〜」と話しながら作業をしたのも良い思い出。



移動した分 活動の幅が広がる

佐々木 菜奈 (直島町)

運転免許のない佐々木隊員にとって、坂の多い島内を回るのがに重宝する電動自転車。瀬戸内国際芸術祭のボランティア経験もあり、島内の観光名所を知り尽くす直島観光のプロでありながら、芸術系の背景も持つ佐々木隊員は、港での観光案内だけでなく、町のPRやデザイン関連業務もこなす。電動自転車を活用してからは、直島に隠れた日常の魅力も発信するため取材に出掛けたり、ちらし配布等で島内に点在する観光関連施設への訪問を通して、遠くに住む島民との交流も増やしたいと、活動の幅を広げている。



電動自転車

地域おこし協力隊の存在をもっと近くに

「道具を通して協力隊のことをもっと知ってもらいたい」と、香川県内で地域おこし協力隊が導入されている全8市町から1名ずつご紹介。それぞれ個性的なこだわりの品から、その多様な活動と想いが見えてきました。普段からお世話になっている地域の皆様にも、今まで同じ地域に住む隊員を遠く感じていた方にも、これを機に地域おこし協力隊のことをもっと身近に感じていただけたら嬉しいです。



島内外への情報発信にも、力を注いでいる。素敵な写真と共に、島の日常を伝えるブログ「男木と献立」(kondatte.com)や、島民にインタビューしながら作る地域新聞は、島の中と外を結ぶコミュニケーションツールにもなっている。

島民の「やりたい」という気持ちを大切にしている石部さん。笑顔での挨拶から始まるいつもの会話には、活動のヒントになる言葉がたくさん詰まっている。



求められること、自分の得意なことが重なったものに取り組みもうと思っただけ「そうして始めた事業の中から、継続的に取り組めそうなものを見極め、協力隊任期後の活動に繋げていきたいと話す。今後は、島内外の人たちと企画したお弁当を、島民に配達する事業に力を入れていくという。この取り組みは「イベントへの参加に積極的でない島民たちにも喜んでもらえることはないか」と考えていた時、島民から「外出や料理をすることが減ったお年寄り向けに、お弁当配達をしてみたい」というアイデアを頂いたことがきっかけだった。「一人でやりたいことに取り組むよりも、想いを共有する誰かと一緒に企画して形にする方が、良いものができるし、楽しい活動になる。だから、島民や関わってくれる友人たちとの会話から生まれるアイデアを大切にしています」まさに、想いの重なるところの見つけ方だ。「料理技術は、これからですけどね」笑いながら、未経験である「食」の分野への挑戦について、こう切り出した。「で

男木島 石部 香織

— になりたい自分 —



どんな地域にしたいか、というよりも、どんな自分になりたいか。全国の地域おこし協力隊を見ても、半数くらいは「なりたいたい自分」に向かって活動をしているように思う。男木島の石部さんもその1人だ。旅行で男木島に来た際、何でも自分たちの手で作り上げる島の人々の姿に魅了された。「なんてクリエイティブな生き方だろう、と思いました」前職で、クリエイティブディレクターとしてウェブサイトの企画制作に携わっていた石部さんは、そう話す。「みなさん、一島民としての役割を全うしながら、自分のやりたいことをやっているので、そうしたバランス感がいいなあと思いました」旅行帰りのフェリーでは「なりたいたい自分」像がはっきりしていたという。

「島の中や外の人と、食をきっかけに交流しながら何かをつくること」を活動テーマとし、情報発信や地域の食材を使った特産品の開発、カラオケイベントなど、様々な事業に取り組む石部さんだが、そこにはある基準があった。「自分のやりたいことと、地域に

も、島には料理が得意な人がたくさんいらっしゃるし、島外にも地域の食文化に興味のある人たちがいます。そうした人たちとチームを組めば、私自身に食分野での業務経験がなくても、実現できると思うんです」色んな人と思いを擦り合わせながら、みんなで歩みを進めていく。石部さんは、島に来ても、ディレクターなのだ。

「なりたいたい自分」ともすると独りよがり聞こえる言葉だが、石部さんのそれは全く違う。島民として、島の文化を継承しつつ、やりたいことにチャレンジできる自分。そんな自分を目指す3年間になりそうだ。

プロフィール

石部 香織

出身地：東京都
活動地域：高松市男木島
活動開始年月：平成28年12月

クリエイティブ関連企業でWEBサイトなどのディレクションを担当。旅行で訪れた男木島の島民や土地の魅力に惹かれ、協力隊に着任。趣味は料理を教わること、写真を撮ること。



6月下旬に「男木の弁当開発会 夏」を開催。島民はもちろん、東京や京都など県外からの参加もあった。本会のアイデアとネットワークを活かして、今後のお弁当配達事業を企画していく。



東かがわ市

田坂 智子

— 自分を隠さない —

「ハニカミーズ」
 一見、気難しそうに見えても、実は優しくて面倒見がいい人を、田坂さんはそう呼んでいた。地域の中にはそうした人が多いという。「人が地域の財産ですよ」そう語る田坂さんの取り組みは、いつも誰かすてきな「人」

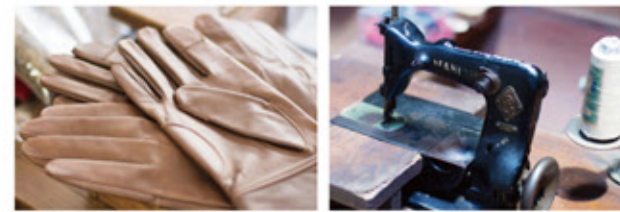
が中心だ。
 平成28年9月、徳島県で勤めていた田坂さんは、地元へ貢献したいという思いから、故郷東かがわ市で地域おこし協力隊となった。この1年間は、お祭りの運営や、薬草栽培、コンテナハウス事業の立ち上げなど、地域の様々な事業に従事。その中で、地域の素晴らしい方々との出会いに恵まれた。今後は、そうした方々と一緒に、新しい取り組みを行っていきたくと話す。

特に力を入れるのは、前職の経験も生かした観光の取り組み。地域資源を掘り起こして伝える。シンプルだが、人によって様々な切り口がある分野だ。田坂さんは、ここでも「人」を大切に行っていると語ってくれた。「地域にとって人は重要な資源です。人と観光資源を組み合わせ、地域の魅力にしていきたいですね」手袋や郷土料理を生かした観光メニューの開発に取り組みが、それらのきつ



かけは、全て「人」との出会いから始まっているという。「地域おこしって、ゴールはないと思うんです。でも、この人のためにここまで実現したいという思いはあります」
 ここまで「人」との縁を大切にしている理由は、自身の経験からだった。「前職で、一人では無理だと思ったことも、色んな人に協力いただいたことで、実現できたことがたくさんあったんです。そこから、人は財産だと改めて感じるようになりました」地元へ帰ってくる時にも、東かがわの人の温かさを感じた田坂さんは、そうした魅力をもっとたくさんの人に知ってもらいたいと感じていた。
 「自分を隠さずに、正直に、誠実に接することが大切だと思います」地域の方と関わる際に、大事にしていることを教えてください。「自分を出していいですか?」と上の写真を撮らせてくれた。ここまでまっすぐなら、ハニカミーズが心を開いてしまうのも無理もない。

東かがわに戻ってきた際に、応援してくれた方々の温かさ感激し、「この人たちのために何かしたい」と思うようになったという。こうした出会いから、東かがわの伝統産業を子どもたちに伝える、新たなプロジェクトもスタートしている。



地域の魅力を組み合わせた観光ツアーを数々企画している田坂さん。この日は、山田海岸を活用したイベントにご協力くださる皆様への挨拶回り。「人」でイベントの良し悪しが決まることを知っている田坂さんは、直接会って話をするを大切にしている。



東かがわ市政策課に所属している。行政と地域のパイプも担う田坂さんの所には、この日も「よう!」と地域の方が。誠実に笑顔で対応する田坂さんを前に、地域の方も心を開いていく。



プロフィール

田坂 智子

出身地：東かがわ市
 活動地域：東かがわ市
 活動開始年月：平成28年9月

旅行会社勤務後、夫の転勤地にて出逢いと子育てを楽しむ。地元愛が膨らんで帰郷。好きなこと: 旅、山登り、食べること。コーヒーをこよなく愛する。





旧多和小学校を利用した天体望遠鏡博物館。当時の面影が残った館内には、所狭しと全国から集まった天体望遠鏡がずらり。地域の皆さんに混じって、吉川さんも運営に携わっている。親切丁寧なガイドは、とても聞きやすい。



さぬき市 吉川直登

— 皆で持続を —



いを形にすることを、吉川さんは決意した。

多和地区で取り組んでいるのは、昨年3月にオープンした天体望遠鏡博物館の運営サポートを中心とする、多和地区のコミュニティ支援だ。イベント運営やSNSを活用した情報発信に取り組んでいる。「今は皆さんボランティアで取り組んでいる。もつとたくさんの人に地域に興味を持ってもらって、持続可能な仕組みを作っていきたい」今後は多和地区の魅力発信する地図づくりにも挑戦する。その時にこだわるのが冒頭の言葉だ。多くの人と協力しながら制作することで、地域づくりに興味を持つ人を増やすのが狙いだ。「できることからコツコツとやりたいですね」謙虚に笑う吉川さんの目には、たくさんの方が楽しみながら地域に関わる、多和地区の未来像が映っている。

「1人では作らずに、みんなで作ろうと思っています」

そう話すのは、さぬき市地域おこし協力隊の吉川さん。今年度取り組もうと思っている地図作りについて尋ねた時だ。「みんな」で」という言葉には、1人でも多くの人が、自分たちの地域に興味を持ってほしいという思いが詰まっていた。

埼玉県出身の吉川さんは、さぬき市の多和地区で活動している。地域への想いは、大学時代に社会学を学んだことがきっかけだ。「将来は、地域活性化に貢献できる仕事がしたいと思うようになっていました」そうした想いもあり、大学卒業後は民間企業に勤めながら、街づくりのボランティア活動に関わっていた。次第に、仕事しながらでは、地域に関われる時間が足りないと感じ、地域おこし協力隊に興味を持ったという。「さぬき市には、大阪に勤めていた時からよくちよく来ていて、なじみがありました」仕事を通じてご縁ができたさぬき市で、学生時代からの想

プロフィール

吉川 直登

出身地：埼玉県
活動地域：さぬき市
活動開始年月：平成28年10月

大学卒業後、日用家庭用品メーカーの営業として3年間東京・大阪勤務。趣味は自転車とピアノ、読書。



地域に積極的に入って行く傍ら、行政とのパイプ役も務めている。もう一人の地域おこし協力隊石原さんや、集落支援員らと情報交換しながら地域での取り組みを計画していく。

地域おこしについて、積極的に学ぶ吉川さん。プライベートな時間も活用して、勉強会や研修会に参加している。市外の協力隊の活動場所へも、自ら足を運んで関係性を構築する姿には頭が下がる。





ひまわりの栽培方法も、油の品質に大きく影響する。適した栽培方法を見つけるために、現地確認や生産者さんのお話を聞くことは欠かせない。



タネの状態や搾油の方法など、油の品質を左右するポイントは様々。検証を重ねることで、安定した品質の油を製造する方法を探っていく。



まんのう町 富山 博喜

— 品質の良い循環 —



コロッケやドレッシングなど、ひまわり油を活用した商品のPRもサポートしている富山さん。この日は高松市内のマルシェに出店。お客様と直接コミュニケーションをとることが、今後の製品開発やPRに役立てられていく。



プロフィール

富山 博喜

出身地：東かがわ市
活動地域：まんのう町
活動開始年月：平成28年8月

高松第一高校卒業。
京都大学農学部で農業工学を専攻した後、特許庁で建設機械などの特許審査に従事。自然と職場と住居とが一体となった生活を求めて、Uターン。趣味は、野球、エッセイ、ブログ。

を作っていくみたいです。その中で、地元農家さんからタネを買ったりしながら、地域の経済に貢献したいです。品質の良い商品作りがもたらすのは、販路拡大だけではない。生産者の笑顔につながる経済循環もその1つだろう。富山さんの丁寧な研究が、そうした品質の良い地域循環を生む日も遠くない。

地域の素材や風土を生かした特産品を開発して、全国で販売したい。こうしたテーマで活動する地域おこし協力隊は多い。そして、そのほとんどが「品質」と「量」の壁に直面する。地域で細々と作ってきた商品を、県外へと届けるためには、この2つの要素をクリアすることが欠かせない。まんのう町地域おこし協力隊の富山さんは、まさにその最前線に取り組んでいる。

夏になると、約100万本のひまわりを楽しむために、多くの観光客で賑わうまんのう町。そのひまわりから採れる油を使った商品開発が、大きな分岐点を迎えていた。廃校を活用した大型の搾油施設を建設し、県外へも販路を拡大するプロジェクトが進められている。「県外で売ろうと思ったら、厳しい目で見られるでしょうから、今までと同じってわけにはいかないと思うんです」そう話す富山さんは、作られる油の品質を研究する、重要な役割を担っている。「規模を大きくしようと思うと、品質の良いタネを揃えたり、

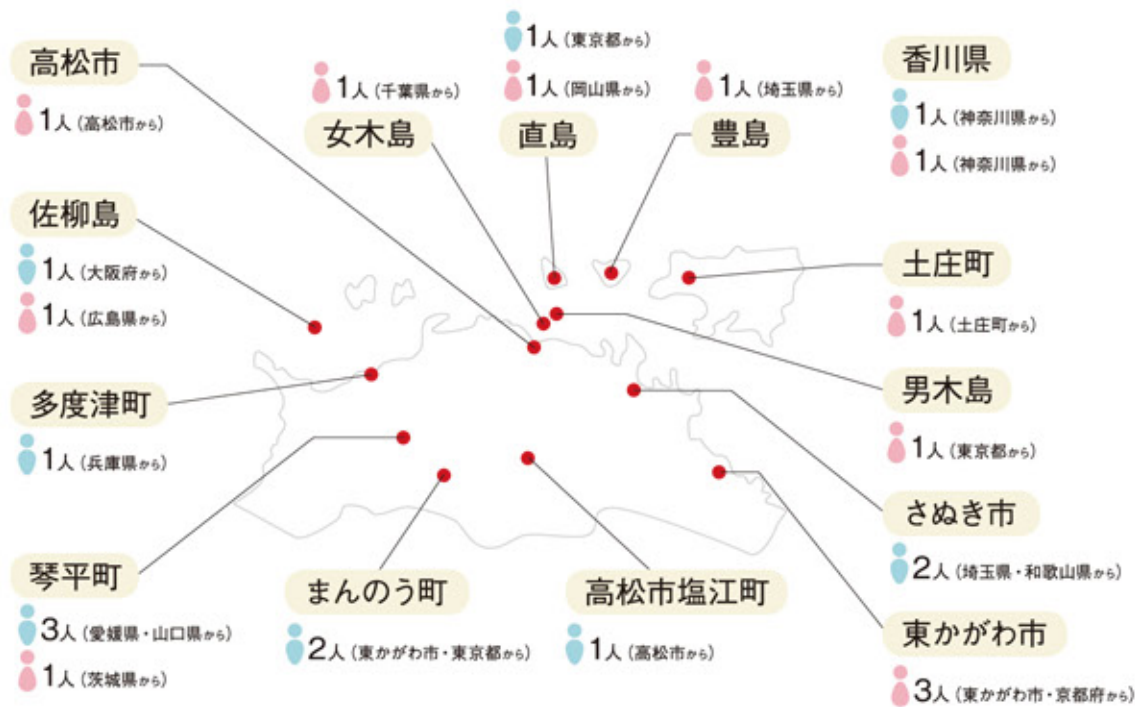
加工方法を工夫したりと、やる事がたくさんあります。将来は、自分の畑でもひまわり油を作ってみたくて考えている富山さんは、町をあげてのプロジェクトに、プレッシャーを感じつつも、品質の研究を楽しんでいた。

「環境の良いところで、自分の作ったものを売ってことを、やってみたくて入庁するも、卒業後、特許庁に入庁するも、自分の理想の暮らしについて考えるようになったという。「全国の移住ツアーに参加して、各地を見て回りました。どこも素敵だったのですが、これっていう決め手が無くて。最後は地元の香川県を選んだんです」。自分で作って、売る。理想のライフスタイルが明確になったタイミングで、特許庁をやめ、まんのう町で地域おこし協力隊に挑戦しようと思った。「将来的には、地域おこし協力隊の経験を生かして、質の良い商品



地域おこし協力隊の活動場所

今回、紹介した市町以外にも、地域おこし協力隊を受け入れている地域があります。各地で活躍する彼らの様子は次号以降で紹介していきます。(平成29年7月3日現在)



ロゴについて



大きな輪は地域を、小さな輪は地域おこし協力隊を表しています。それぞれが個性的で多様性に富んだ協力隊の輪はカラフルで、決まった色はありません。その時々で色が変わります。大きな地域の輪に、小さいけれど多様でカラフルな地域おこし協力隊の輪がつながることで、さらに豊かで活き活きとした香川県になってほしいという願いが込められています。



地域おこし協力隊
本気宣言ロゴ

大きな地域の輪をグッと握るのは、地域おこし協力隊をはじめとする「地域おこしに本気の人々」。地域・行政・地域おこし協力隊の本気が重なり合って初めて実現することのできる地域おこしを表現しました。

● あとがき ●

“チャレンジする姿はカッコいい”

どうして地域おこし協力隊になったのか？どんな想いで活動しているのか？こうした、地域おこし協力隊の根っこにある気持ちを伝えたいとスタートしたさぬきの輪TIMES。早いもので4冊目を迎えました。創刊当初から、想像以上のご反響をいただき、作った我々も驚くほどでした。多くの方からご支持をいただけた理由を、私なりに考えてみると、シンプルに「地域でチャレンジしている姿はカッコいい」という所に帰着しました。新しい土地で、自分たちなりの挑戦を繰り返す地域おこし協力隊の姿は、見る人を奮い立たせるのではないかと。職人のこだわりの道具を見た時のように。そんな気持ちにさせてくれる4冊目となりました。使い込まれてゴロゴロになった道具を、自分のこだわりの逸品だと紹介してくれたみなさんは、やっぱり活き活きと輝いて見え、こうした魅力を一人でも多くの人に知っていただきたいと、再認識しました。今後みなさんの想いを、丁寧に伝えていきたいと思っています。ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

秋吉直樹

“距離を縮めるきっかけに”

今回は特集記事「協力隊こだわりの品」を担当させていただきました。特集について考えていたときに、「普段使っているモノを通して、香川県内にいる地域おこし協力隊がどんな人で、どんな活動をしているのか、どのような想いがあるのか、をもっと知ってもらえたらいいよね」という話から生まれた企画でした。各隊員と話していくうちに、改めて、地域おこし協力隊は地域の方と深く関わりながら、そこでの生活を楽みつつ地域のために出来ることを少しずつ、でも着実に活動している様子が感じられました。本誌を通して、今まで隊員と直接関わりがなかった地域の皆様にも、同じ地域に住む隊員がどんな人なのかを知っていただくことで、もっと距離が縮まったり隊員に話しかけるきっかけにもなったら嬉しいです。最後に、お忙しい中本誌作成にご協力いただいた隊員の皆様に心より感謝申し上げます。

吉田 恵



本気 その1
導入目的
明確化サポート

本気で導入準備をしています！
「なぜ協力隊を導入するのか?」「何のために、どんな事を協力隊にしてもらいたいのか?」「行政・地域・コーディネーターが事前に徹底議論しています!」



本気 その2
協力隊ネットワークで
支え合う

本気の仲間がいます！
月に1度さぬきの輪の集いという地域おこし協力隊同士の意見交換会を開催しています。アイデアを交換したり、悩みを打ち明けたり、隊員同士で支え合えるネットワークができています!



本気 その3
協力隊 ×
行政連携体制サポート

行政と協力隊の本気の付き合い
県独自の行政職員・協力隊向けの研修や、行政と協力隊が意見交換をする座談会を実施。行政と協力隊が2人3脚で地域協力活動に取り組めるような体制づくりを進めています。



本気 その4
定住しやすい
体制づくり

本気で暮らしをサポートします！
県内の空き家情報が一目で分かる「かがわ住まいネット」やサポートスタッフによるマッチングサービスが充実の「jobナビかがわ」など、任期後の定住を応援する体制を整えています!



本気 その5
挑戦しやすい
体制づくり

本気の挑戦をサポートします！
香川県は移住者向けの起業支援補助金や創業支援センターでの相談対応など、創業・起業の準備段階から創業後のフォローアップまでをサポートする体制を整えています!また「FAAVO 香川」のオフィシャルパートナーとして、クラウドファンディングを活用した地域活性化事業を積極的に応援しています。



日本中で地域おこし協力隊の募集が始まっています。しかし、ただ「導入」するだけで効果を発揮するものではありません。地域・行政・隊員、それぞれの本気があつて初めてスタートラインです。そこで香川県は宣言します！
地域おこし協力隊に本気で向き合う事を！
本気で地域おこしがしたい人を大歓迎する事を！
特設HPで「私たちの本気宣言」を公開中!

地域おこし協力隊 本気宣言

宣言しただけではありません！地域が、隊員が、それぞれ輝くために新しいことにチャレンジしています。

さぬきの輪 そろばん教室

「予算っていつ決まるの?」「活動費ってどんなことに使えるの?」「とにかく行政の予算って分かりにくい……」そんな地域おこし協力隊の声にお応えすべく「さぬきの輪そろばん教室～みんなで考える協力隊の予算～」を開催しました。



さぬきの輪 TERACOYA

地域おこしに必要な知識・スキルの取得を目指す研修企画。地域と協働するために大切なコミュニケーションスキルを中心とした学びの場です。



さぬきの輪 連携事業

地域の枠を超えた連携。民間団体との連携。地域おこし協力隊ネットワークの強みを活かしたコラボ企画を実施しています。



さぬきの輪TIMES

こだわりの4冊目

2017年8月 発行

発行：香川県地域おこし協力隊
〒760-8570 香川県高松市番町4丁目1番10号

TEL：087-832-3105

FAX：087-831-1165

MAIL：chikik@pref.kagawa.lg.jp

